

佳作

## 「おばあちゃんいつもありがとう」

岡山県

倉敷市立万寿東小学校 一年

ふじたともか

「ともちゃん」

わたしのおばあちゃんは、あつといつもニコニコしてわたしをよんでくれます。わたしは、このおばあちゃんのえがおが、大好きです。

わたしのお父さんとお母さんは、はたらいています。そこで、わたしが小学校に入るまえは、おばあちゃんのうちですごしていたこともあります。だから、おばあちゃん、ずっといつしよにすごしてきました。お母さんが、しごとでごはんをつくるじかがないとき、よくおばあちゃんは、ごはんをとどけてお母さんをたすけてくれます。おばあちゃんのはんは、いつも、やさしいあじがします。

よくおばあちゃんのおうちにくくと、いつしよにおかずをつくらせてくれます。まえは、フライをつくるときに、パンこをつけてさせてもらいました。

「こうやって、パンこをつけて、ひっくりかえすんだよ。」

おばあちゃんは、やさしくおしえてくれます。おばあちゃんどごはんをつくるのは大好きです。お正月には、あんこもちやまめもちなどの、おもちをいつしよにつくります。さいしよはうまうまいかなかったけど、おばあちゃんに、こつをおしえてもらって、なんども、おもちをまるめていると、

「ともちゃん、じょうずだね。」

とおばあちゃんが、ほめてくれました。おばあちゃんがほめてくれて、とてもうれしかったです。ほかに、おばあちゃんのすごところは、チョッキヤセーターを、じょうずにあめるところです。わたしにも、キャラクターのついたチョッキヤセーターをあんでくれました。わたしは、とてもうれしかったです。こんなあみものができて、おばあちゃんはすごいなあとおもいます。きんじよの友だちのお母さんたちも、それをきいていると、「おばあちゃんがあんだの。すごいねえ。」とほめてくれます。わたしは、そのとき、なんだかじぶんがほめられたような、うれしいきもちになります。わたしも大きくなったらおばあちゃんみたいに、じょうずにチョッキヤセーターをあみみたいです。

おばあちゃん、いつしよにごはんをつくらせていたら、わたしは、いつのまにか、ごはんをつくるのが大すきになっていました。こんどは、わたしが、おばあちゃんに、にくじやがをつくってたべさせてあげたいです。それから、おばあちゃんは、あおいろのぶくが、とてもあっています。いつか、あみものをもつとれんしゅうして、あおいろのセーターをあんであげたいです。だから、ずっとげんきで、ながいきしてください。あばあちゃんのこと大すきだよ。おばあちゃんにあっているときは、なかなかいえないけれど、おあばちゃん、いつもありがとう。また、いつしよにおりょうりやあみものしよつね。